

「韓国のファール」石宙明の昆虫標本が九州大学に現存
～戦前の朝鮮半島の環境の推定・希少種の保全に期待～

ポイント

- ① 石宙明 D.M. Seok (1908-1950) は、蝶類の分類学に貢献した韓国初の昆虫学者。
- ② 石は生涯を通じて 75 万個体の蝶の標本を収集したが、そのほとんどが朝鮮戦争等で焼失したとされていた。
- ③ しかし、1930-40 年代に石が朝鮮半島で採集した希少種を含む昆虫標本が九州大学に現存していることが分かり、日韓共同で調査を進めリストを作成して公表した。
- ④ 今回確認した標本をもとに、戦前の朝鮮半島の環境を推定し、希少種の保全を行うことが期待される。

概要

韓国初の昆虫学者である石宙明の昆虫標本は、戦争等で焼失したとされていた。しかし、韓国国立生物資源館（代表：安能浩生物研究士）と九州大学（代表：廣渡俊哉特任教授）の共同調査により、石が 1930-40 年代に朝鮮半島で採集した昆虫標本 35 種 129 個体が九州大学大学院農学研究院に保管されていることが明らかとなった。これらの標本は、日本の昆虫研究者（岡島銀次、江崎悌三、杉谷岩彦、柴谷篤弘など）と交流があった石本人が 1930 年代に九州大学に寄贈したものである。

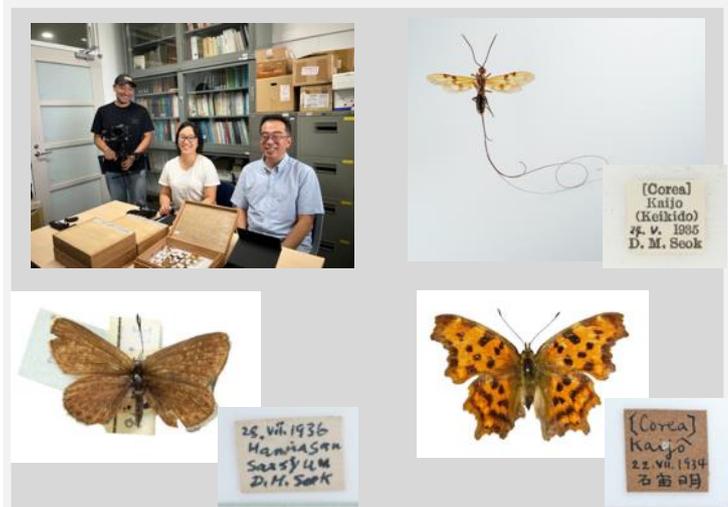
その中には、韓国では済州島だけに分布する希少種ヒメシジミや、大型の寄生バチであるウマノオバチ、個体群が減少している草原性のチョウセンキバネツノトンボなどが含まれていた。このように戦前に朝鮮半島で採集された昆虫標本は韓国にはほとんど保管されておらず、当時の環境を知る上で重要なものである。石宙明の標本については、2024 年 9 月に九州大学から韓国国立生物資源館に移管された。また、石宙明の標本が多数見つかったということで、韓国では注目されて大々的に報道され、シンポジウムも開催された。

なお、本研究成果は、韓国の学術誌「Journal of Species Research (JSR)」に 2024 年 11 月 30 日に公開された。

研究者からひとこと：

九州大学では、石宙明が採集・寄贈した標本を 90 年以上保管していたことになりましたが、韓国でまとめて管理・利用した方がよいと判断しました。韓国側の研究者は九州大学で熱心に調査を行って多くの石宙明標本を確認し、長年の標本管理に感謝するとともに、韓国に移管されたことを大変喜んでます。これを機に、両国の共同研究がさらに進展することを祈念しています。

廣渡俊哉



左上：九大を訪問した韓国国立生物資源館のスタッフ
(2024.9.24) 右端が安能浩生物研究士（三田敏治准教授撮影）

右上：石宙明が開城で採集したウマノオバチ

左下：石宙明が済州島で採集したヒメシジミ

右下：石宙明が開城で採集したシータテハ

【研究の背景と経緯】

石宙明 D.M. Seok (1908~1950) は、蝶類の分類学に貢献した韓国初の昆虫学者である。石は生涯を通じて 75 万個体の蝶の標本を収集したが、そのほとんどが朝鮮戦争等で焼失し、現存するのはラベルデータが不確かなわずか 32 個体の蝶の標本のみとされていた。しかし、韓国国立生物資源館と九州大学の共同研究の過程で、九州大学大学院農学研究院には、石宙明が戦前に朝鮮半島で採集した複数の昆虫標本が現存していることが明らかとなった。そこで、安能浩生物研究士をはじめとする韓国国立生物資源館と廣渡俊哉特任教授をはじめとする九州大学の研究者が共同で九州大学に保管されている石宙明の標本調査を行った。

【研究の内容と成果】

その結果、石が 1930-40 年代に朝鮮半島で採集した昆虫標本 35 種 129 個体が九州大学大学院農学研究院に保管されていることが明らかとなった。分類群別にみると、ヘビトンボ目 1 種、アミメカゲロウ目 5 種、カメムシ目 7 種、ハチ目 2 種、カメムシ目 1 種、バッタ目 5 種、トビケラ目 4 種、チョウ目 10 種である。これらの標本は、日本の昆虫研究者（岡島銀次、江崎悌三、杉谷岩彦、柴谷篤弘など）と交流があった石本人が 1930 年代に九州大学に寄贈したものである。

その中には、韓国では済州島のみ分布する希少種ヒメシジミや、大型の寄生バチであるウマノオバチ、個体群が減少している草原性のチョウセンキバネツノトンボなどが含まれていた。このように戦前に朝鮮半島で採集された昆虫標本は韓国にはほとんど保管されておらず、当時の環境を知る上で重要である。石宙明の標本については、2024 年 9 月に九州大学から韓国国立生物資源館に移管された。

【今後の展開】

九州大学大学院農学研究院には、石宙明の標本の他に同氏とも交流があった昆虫学者杉谷岩彦が戦前に朝鮮半島などで採集した蝶蛾類の標本約 36,000 点が保管されており（杉谷コレクション）、これまでもこのコレクションを利用して多くの分類学的論文が出版されてきた。今後は、個体数が減少している日韓の昆虫類の保全を行うために、石宙明や杉谷岩彦の標本を利用して、希少種の過去の生息環境の推定や過去と現在の個体群の遺伝的変遷の解明など、日韓の共同研究が期待される。

【追記】

2024 年 11 月 28 日に、韓国国立生物資源館（仁川市）で、石宙明の標本が発見・移管されたことを記念して、韓国昆虫学会の年次大会で石宙明に関する特別シンポジウムが開催された（4 人の演者が講演）。このシンポジウムで、廣渡特任教授が「1920-40 年代に石宙明と関係のあった日本の昆虫学者」と題して講演を行った。

座長：Neung-Ho Ahn（安能浩）

Kim Chanmu 韓国国立生物資源館課長（寄贈標本と資源館収蔵庫について）

Toshiya Hirowatari 九州大学特任教授（石宙明と日本の昆虫学者）

Moon Manyong 全北大学教授（石宙明と韓国の分類学歴史）

Yoon Yongtaek 済州大学教授（韓国のルネサンス人石宙明）

（※かっこ内は発表内容）

【論文情報】

掲載誌：Journal of Species Research 13(4):404-416, 2024

タイトル：List of insect collection by Du-Myung Seok preserved at Kyushu University in Japan

著者名：Neung-Ho Ahn, Wanggyu Kim, Changmu Kim, Sadahisa Yagi, Jinhyeong Park, Satoshi Kamitani, Toshiharu Mita and Toshiya Hirowatari

DOI：[10.12651/JSR.2024.13.4.404](https://doi.org/10.12651/JSR.2024.13.4.404)

【お問合せ先】

<研究に関すること>

九州大学大学院農学研究院 特任教授 廣渡 俊哉（ヒロワタリ トシヤ）

TEL：090-3721-5364

Mail：hirowat_t@agr.kyushu-u.ac.jp

<報道に関すること>

九州大学 広報課

TEL：092-802-2130 FAX：092-802-2139

Mail：koho@jimu.kyushu-u.ac.jp